

横浜型行政評価システム

神奈川県横浜市

人口：3,544,104 人

面積：437.38 km²

取組の概要

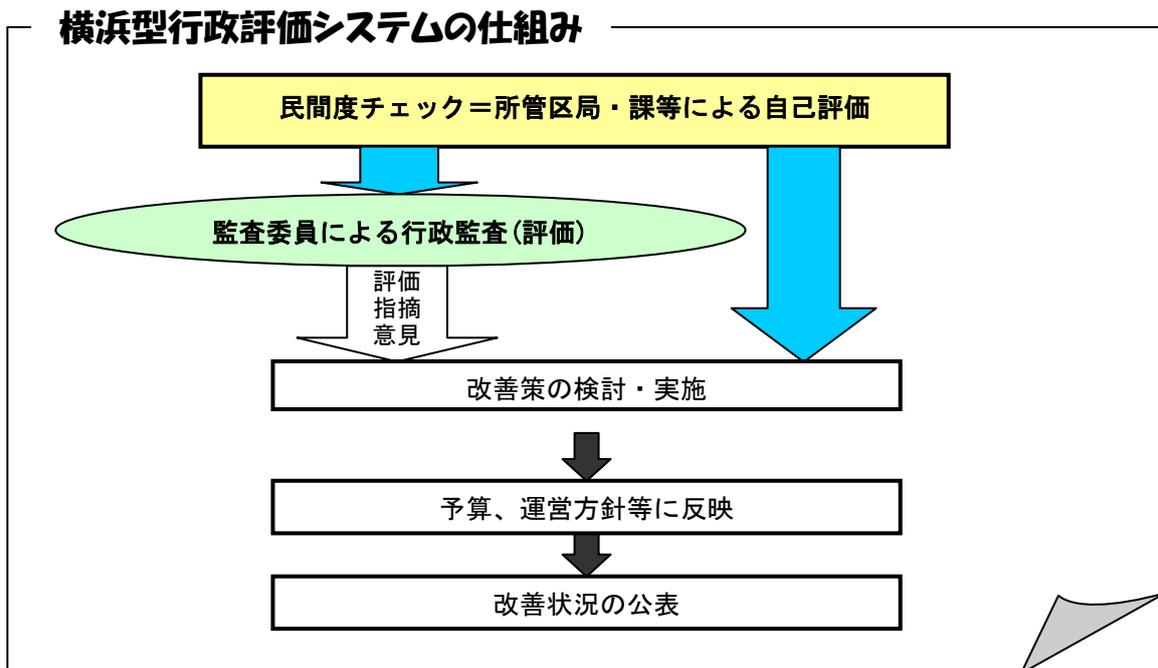
平成 15 年度から民間度チェック（全職員による全事業・業務の点検・確認）を実施してきたが、平成 18 年度からこれを見直すとともに、監査委員による行政監査（評価）のプロセスに組み込まれる仕組みを作り、評価の客観性や改革・改善の実効性を高めた。

取組の紹介

1 取組の背景

- 横浜市政の基本理念「民の力が存分に発揮される都市・横浜の実現」のために、すべての組織と職員が市民や企業の感覚を大切にし、コストやスピードなど効率化の視点を踏まえるとともに、これまでの成長・拡大を前提としたあらゆるシステムの見直しを行い、抜本的に行政運営を改革していくツールの一つとして「民間度チェック」に取り組んできた。
- しかし、平成 17 年 12 月に行った検証では「改善に対する具体的な取組みは十分であるとはいえない。」という結果となり、当事者内部による自己評価では限界があることから、より一層客観性を確保するため、平成 18 年度から新たに、監査委員による行政監査（評価）の中に、民間度チェックを組み込んだ「横浜型行政評価システム」をスタートさせた。

2 取組の具体的内容



【評価のフロー】

- ① 各区局事業本部で、原則すべての事業について自己評価を行う。
- ② 監査委員が指定する事業（おおむね4年で全事業を一巡）は、監査委員が、自己評価と同じ視点で行政監査（評価）を行う。
- ③ 自己評価及び行政監査（評価）の結果を踏まえて、各所属で改善策の検討
- ④ 改善策を予算編成、区局の運営方針に反映させる。
- ⑤ 評価結果及び改善策は、ホームページ等を通じて市民に公表

【主な特徴】

- ① 成果を重視した行政運営を図るため、事後評価
- ② 事業評価に加え、施策評価を実施
- ③ 自己評価に監査委員による行政監査（評価）を組み合わせることにより、客観性を高める。
- ④ 監査委員による指摘・意見は、予算編成や区局の運営方針に確実に反映させることにより、実効性を確保
- ⑤ 評価結果をランク化し、市民に分かりやすく公表する。
- ⑥ 監査対象には、要求監査制度を活用して市長が選定する項目を加える。

【評価シート（事業評価）】

平成 18 年度

事業評価シート【自己評価】

No. -

事業名		担当		区局部課名	電話		-		
課長名									
施策名	<input type="checkbox"/> 中期計画							重点事業	-
	<input type="checkbox"/> 運営方針							番号	-
目的									
内容									
根拠法令等									
コスト	区 分			H16決算	H17決算	H18予算	H18決算見込	H19予算	
	事業費 (千円)								
	うち一般財源等 (千円)								
	人件費(概算) (千円)								
総コスト(概算) (千円)									
活動・成果 指標	名 称		単位	H16実績	H17実績	H18予定	H18実績見込	H19予定	
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
	<input type="checkbox"/> 単位当たりコスト【総コスト/指標】		(千円)						
評価項目	点数	理由・説明等							
1 適応性	-	① 市民ニーズや社会経済情勢の現状に適切しているか。					□4□3□2□1		
	-	② 事業を市が行う必要性があるか。					□4□3□2□1		
2 有効性	-	③ 事業の目的に照らして効果的な手法か。					□4□3□2□1		
	-	④ 施策や運営方針等の目的の実現に寄与しているか。					□4□3□2□1		
3 目標 達成度	-	⑤ 目標の水準は適切か。					□4□3□2□1		
	-	⑥ 計画通りに目標を達成できたか。					□4□3□2□1		
4 経済性 効率性	-	⑦ コストは縮減しているか。					□4□3□2□1		
	-	⑧ 事務は効率的に行われているか。					□4□3□2□1		
5 正確性 信頼性	-	⑨ 安全・正確を確保する手段が講じられているか。					□4□3□2□1		
	-	⑩ 説明責任を果たすために適切な情報提供がされているか。					□4□3□2□1		
総合評価	合計	-	(協働の取組状況)						
	↓ 100点 換算	-	特記 事項	(環境への負荷)					
	ランク (A~E)	-							

4 取組中の課題・問題点

- ・ 横浜市という大きな組織の中で、この新しいシステムの周知を図るため、実務マニュアルの充実、実務研修会（全体・区局別）を開催するなどして、浸透を図るよう努力している。
- ・ また、市民に分かりやすくランク化して公表するので、どうしても自己評価が甘くなりやすい。評価基準の統一や、職員の意識改革を更に進めることが重要になる。

5 住民の反応・評価

- ・ 評価結果をホームページ等で公表しているが、平成 18 年度に導入したばかりのシステムであり、市民からの反応・評価はこれからという段階と考えている。
- ・ 行政評価は、市民満足度の向上を目的として行うものであり、市民からの声を成果指標等に取り入れるなどして、市民意見が反映されるよう工夫していきたい。

6 今後の課題

- ・ 更に透明性、客観性、実効性のあるシステムになるよう、評価を行った各区局事業本部の意見等を踏まえ、システムの改良を進めていく。
- ・ 今回は、外部評価として監査委員による行政監査（評価）を導入したが、今後は、より客観性、透明性を高めるため、市民による評価の導入も検討していく予定である。

7 今後取り組む自治体に向けた助言

- ・ 市の施策・事業についての説明責任を果たしていくことは、今後ますます重要になっていくと考えられる。
- ・ 行政評価に監査委員による行政監査（評価）を組み込んだ方式によるものはまだ少ないが、外部評価導入の一つの方策として参考にさせていただければ幸いである。
- ・ 外部評価者を監査委員とした最大のメリットは、監査委員は市の事務事業についての知識があるため、より具体的な指摘・指導を受けることが期待できることである。

(参考) 当該取組内容の関連ホームページ

<http://www.city.yokohama.jp/me/keiei/engine/minkando/minkando.html>

担当部署：都市経営局政策課改革推進担当